

授業概要

平成 29・30 年度告示学習指導要領の「改訂の趣旨及び要点」では、「言葉」に関する事項が多く示されている。また、社会状況や学習者の社会文化的背景の変化と多様性を踏まえ、昨今の国語科に関する議論では、改めて「国語」「日本語」「言葉」＝「言語」が問い直され、より良い国語科のあり方が議論されつつある。以上を踏まえ、本授業では、言語の視点から国語科を捉えなおし、より高度な国語科授業を考案・実践していく基礎となる知識や方法の習得を目指す。そのため、言語をめぐる現代の状況や言語学・記号論の知見を講義し、「ことば」に関わる専門知識や理論を用いて教材研究や国語科授業の実践力を高める方法を指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション：言語の視点から国語科を捉えなおす
第 2 回	日本語学と国語科教材・授業研究①：国語科における「教科書」と「語彙指導」の再考
第 3 回	日本語学と国語科教材・授業研究②：バリアフリー・多文化共生・インクルーシブ
第 4 回	日本語学と国語科教材・授業研究③：学校文法の概要と課題を中心に
第 5 回	社会言語学と国語科教材・授業研究：ポライトネスを中心に
第 6 回	機能言語学と国語科教材・授業研究：マルチモーダル・リテラシーを中心に
第 7 回	社会記号論と国語科教材・授業研究：ソーシャルメディアの「複雑さ」を中心に
第 8 回	国語科教材・授業研究と言語学・記号論研究
第 9 回	リサーチプラン・指導計画の構想と作成
第 10 回	リサーチワークと学習指導案の作成
第 11 回	模擬授業とディスカッション①：中学校の語彙指導を中心に
第 12 回	模擬授業とディスカッション②：中学校の言語活動学習を中心に
第 13 回	模擬授業とディスカッション③：高等学校「国語表現」を中心に
第 14 回	模擬授業とディスカッション④：中学校・高等学校の「読むこと」を中心に
第 15 回	まとめ：言語の視点から国語科実践を高める
第 16 回	期末課題の提出

到達目標

- ・言語の視点や、言語学や記号論の知見から国語科の教材研究を行うことができる。
- ・言語学や記号論の知見を踏まえて、より高度な国語科授業の実践を行う方法を理解することができる。
- ・現代の状況や言語の視点を導入して、これからの国語科の教育内容や方法について考えることができる。

履修上の注意

- ・10 分以上の遅刻は欠席とみなすので注意すること。
- ・Teams を使うため、情報機器（PC 推奨、タブレット端末・スマートフォン等も可）を毎回持参すること。
- ・毎回のリアクションペーパーについて、欠席回および遅れて提出されたものについては原則成績に参入しないので注意すること。ただし、実習等やむを得ない事情がある場合は考慮するので必ず事前に申し出ること。
- ・本授業は「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」の内容を前提として実施するため、履修済みであることが望ましい。

予習・復習

- ・予習：授業の進捗に応じて適宜指示する。
- ・復習：毎回のリアクションペーパー作成を通じて丁寧に行うこと。詳しくは初回に案内する。

評価方法

- ・授業各回の内容理解：30%（リアクションペーパー（毎回提出）の内容で評価する）
- ・授業内容の理解と取り組み：40%（グループワーク・模擬授業およびディスカッションの内容で評価する）
- ・授業全体の内容理解と考察の深まり：30%（期末課題で評価する）

テキスト

- ・日本語学会編『日本語探究のすすめ：日本語学と国語教育の連携に向けて』大修館書店、2024 年、ISBN：978-4-469-22287-6
- ・その他、資料を配布する。